

今週のメニュー

■トピックス

◇環境配慮型シュリンクフィルム「和 shu」が発売される！

■随想

◇賞を頂いた弊社の人材確保・人材育成の話

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

■トピックス

◇環境配慮型シュリンクフィルム「和 shu」が発売される！

塩ビペーストゾルコンパウンドや食品用容器等のメーカーである(株)コバヤシと、シュリンクフィルムメーカーのサンプラスチック(株)が共同開発した、ポリ塩化ビニル樹脂(塩ビ)と天然素材を組み合わせた環境配慮型のシュリンクフィルム「和 shu」が、2020年6月に発売される予定です。「和 shu」は、[PVC Award 2019](#)において入賞した作品です。

(株)コバヤシは、植物由来のバイオマス原料(トウモロコシデンプン)と石油由来のポリオレフィンを複合させたバイオマスハイブリット材料をつくる技術を有しています。その技術を活かして食品用容器及び原料ペレットの製造・販売を2010年より行っています。バイオマス原料を用いたポリ乳酸(PLA)やバイオベースのポリエチレンフィルム製品は、汎用のプラスチック容器・包装と同様の表面性で、紙などの天然素材が持つ風合いや手触り感がありませんでした。今回開発したフィルムは、塩ビの加工性と天然高分子であるデンプン(コーンスターチ顆粒)の特性を組み合わせることによって、和紙のような独特な風合いと質感のある機能を発現することができました(同社 技術研究所 古川央庸(こがわひさのぶ)氏)。

同社は、このフィルムの特性を活かして実用化するため、塩ビシュリンクフィルム加工技術を有するサンプラスチック(株)と協働して、日本酒包装用途に着目して新しい付加価値のあるシュリンクフィルム(商品名「和 shu」)の開発に至りました。この包装材は、商品の保護はもちろん、美観を高め、装飾性・化粧性に付加価値を提供し、和紙調で高級感を演出します。



シュリンクフィルム「和 shu」

シュリンク包装とは、DVD ケース、コミック・単行本、歯磨き粉のチューブ容器、化粧品箱、乾電池などでよく見る、フィルムでピッタリ包まれた包装のことで、シュリンクは、専用の延伸フィルムを加熱収縮させて品物を密着包装する方法です。シュリンクフィルムは、製造時に縦方向と横方向に引っ張って（二軸延伸という）つくったフィルムが、加熱することによって元の大きさに収縮する性質を利用したものです。この包装により新品であることを示したり、商品を汚れから保護したりすることができます。

今回、原料として塩ビを採用したのは、成形・加工特性に優れ、低温で収縮でき、透明度がよく、0.03mm 厚の薄膜でも強度・こしがあることなどの理由からです。それに、デンプンを添加することで和紙のような独特の表面光沢感（艶消し）とタテ・ヨコ自在、簡単に切れる開封性が得られることです。

また、「和 shu」は、植物由来のバイオマス原料（デンプン）を 10% 使用していることから、CO₂ 排出量削減に貢献でき、環境配慮型シュリンクフィルムと言えます。バイオマス原料を使用した製品は、植物を燃やして排出される CO₂ と植物が成長するうえで吸収する CO₂ が同じ量という概念（カーボンニュートラル）に適合するのです。

2020 年 1 月 17 日(金)~26 日(日)の 10 日間、GOOD DESIGN Marunouchi（東京都千代田区丸の内 新国際ビル 1F）で開催した PVC Award 2019 の展示会において、「和 shu」を展示し、多くの方に観ていただき、注目を集めていました。



「和 shu」の展示の様子

現在、食品・化粧品包装用途で引き合いがあるそうです。今後、多くの方に知っていただき、広く普及していくことを期待しています。

■ 随想

◇賞を頂いた弊社の人材確保・人材育成の話

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

わたくし、(株)テオリアハウスクリニックの平 一暁（たいらかずあき）と申します。通常ですと、VEC さんのメールマガジンでは山の話だったり、シロアリの話を書かせて頂いておりますが、今回は趣向を変えて、弊社の人材確保・人材育成について書かせて頂きます。実は昨年、ジェルコ（日本住宅リフォーム産業協会）が主催するジェルコリフォームコンテストのビジネスモデル部門（この部門は経済産業省の創設になります。）で、弊社の取り組みがジェルコ会長賞を受賞しました。

https://www.jerco.or.jp/contestyear/2019/?id=business_2019

防蟻会社の取り組みが果たしてみなさんのお役に立つかどうかはわかりませんが、ご興味がありましたらご一読下さい。

そもそも、シロアリの会社には人は集まるのか…

弊社は1974年の設立で、創業46年になります。当時のシロアリ駆除の会社といえば訪問販売が主流の中で、弊社は戸建住宅新築時の予防を提唱していました。「被害があつてこそメシの種なのに、なんで新築時に予防なんかするんだ！」今でこそ当たり前の事なのですが、業界では異端児扱い。(笑)「喰われて泣くより、まず予防」と建築業界に呼び掛けるなど、何事にも新しいことに取り組んできた会社です。新築時の予防施工がメインでしたが、20年ほど前に転機があり、今では既存住宅、既に建っているお宅の点検や施工が9割を占めます。

となると、業務の主戦場は床下になります。我々は床下のプロ。でもK(暗い)、S(狭い)、K(汚い)、そんなKSKな床下がメインの会社には人が集まるのか? 2004年、社員は30名に満たない中で社員の平均年齢は45歳を超えて当時の社長の年齢を上回ってしまい、翌年から新卒採用着手を決断するのでした。

人口減少の先を見据えて…

少しずつ社員は増えていきました。ただ、本格的な人口減少を前に、いくら仕事があつてもそれをこなす人間がいなければ、会社は成り立たない。それでなくても現場はKSK…。2014年から、本腰を入れて人材確保・人材育成に着手しました。

2014年の10月、千葉県八街市の空き家を安価で購入。コレ、財産云々ではないです。研修所として。我々の仕事はもちろん座学も大事ですが、実践感覚はもっと大事。本物の家を使つての床下点検や薬剤散布の方法、玄関穿孔や養生のしかた、畳下の荒床の電ノコカットまで、空き家の研修所で学ぶようにしたのです。それまでは現場について行って、先輩を見て覚える、やって覚える。でも未熟な者がやってもお客様に失礼ですし、新入社員も恐縮してしまう。なら、本物の家で習得してもらおう。空き家も増えてきているし…。しかも社員が社員に実践で教えられるので、新たな伝承も生れるかな、といった取り組みでもありました。



この甲斐があつて、翌2015年4月には多能工育成に着手。点検口作成や被害部分のちょっとした補修などは、それまで大工さんをお願いしていたのですが、社員には「自分たちにもできるんじゃない?」という思いが本物の家での研修をやっているうちに芽生えたようです。1つの部屋のフローリングに点検口が10ヶ所も20ヶ所もできましたが、そしたら今度はフローリング自体の全面張り替え。いい流れができてきました。

今どきの20代の人たちが入社したくなる会社へ…

同時期の2014年10月からブランディングにも着手。着手したからすぐに変えられるものではなく1年ほど準備期間が必要でしたが、2015年10月、関東白蟻防除株式会社から株式会社テオリアハウスクリニックに社名変更。断腸の思いではありましたが、今どきの20代の人たちが入社したくなる会社を目指すには、やはり社名は大事だと考えたからです。続いて「Understage Hero」(縁の下の力持ちとして)というブランドコンセプトを定め、自社キャラクターを刷新。ホームページも大改装。ユニフォームは若い世代が着たくなるようなものにフルチェンジ。グループ会社と共にホールディングス化して、新社章を作成。インスペクション事業や断熱事業といった新規事業も立ち上げ、さらに各事業のブランド化も行いました。



埼玉営業所

ホームインスペクション事業をスタートさせるにあたり、先々建築士の需要が増すであろうと2015年10月から建築士育成に着手。翌2016年に一級建築士事務所登録。2017年10月には、越谷にあった空き倉庫を自社社員で改修し始め、2018年10月埼玉営業所がオープン。ここは営業所機能の他、座学用の会議室スペースや倉庫内に違った4タイプのスケルトンの家を建てた研修スペースも備え、自社研修はもちろん、社外の方を対象にしたセミナーなども行えるようになりました。2019年4月には、空き家を多能工で大改修した町田営業所が開設。



町田営業所

少しずつではありますが、だんだんと形ができてきました。

女性だって床下にもぐる時代へ…

新卒採用では2006年から一期生が入ってきました。当初は採用業者に手伝ってもらいながらの新卒採用も、今では社内に採用チームを作り、社員が新たな仲間探しを行っています。そんな2017年の会社説明会でのできごと。「女性も床下点検できますか？」君

が望むなら何の問題もないよと対応していたら、本当に彼女は2018年4月に新卒で入社。こんな会社で、この人たちに教わりながら働いてみたかった、との事。その年、途中で1名、2019年は新卒と途中で2名。今年は既に新卒で2名が入社し、床下点検を行う女性は計6名になりました。さまざまなケアも必要ですが、女性の床下点検員ってとても大事なんです。平日昼間の床下点検は奥様が一人で対応するケースが多いので安心されるし、女性にしかわからない事を女性同士で共感する事もできる。また私も経験がありますが、アパートで一人暮らしの女性の部屋に害虫発生！なんて時は、男性が伺うと恥ずかしいのか部屋に入れてくれない事もあるのですが、女性ならそんな事はない。



女性が床下に入って仕事をしてみたい！なんて頼もしい限りです。

社員自らの手で確保し、社員自ら育成する

人材確保・人材育成の取り組みに本格的に挑んだこの約5年間に対して、ジェルコ会長賞を頂きました。講評では、「人材難の中で、防蟻を中心とした床下業務（KSK＝暗い、狭い、汚い）をブランディングし、女性の新卒採用、断熱・住宅診断事業の新事業の立ち上げなど会社自体もモデルチェンジを図った。また中身を作るために研修所の立ち上げを実施し、多能工を育成。床下関連施工のワンストップを目指して、売上の拡大に成功したことを評価。」とありました。

15～6年前に30名に満たなかった社員も、現在は80名に迫る勢いです。テオリアハウスクリニックの人材確保・人材育成は、社員自らの手で確保し、社員自らが育成する。現在では20代、30代の社員が中心です。上の年代の役職者は、例えば家に例えるなら全体の骨組みを作るだけ。後は社員みんなで間取りを考え、内装をし、どんな物を置くかを工夫する。これからも社員全員で、創意工夫をしながら作り上げていきます。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp